校種：小学校　　対象学年：２年　　人権課題：仕事・労働への偏見

いのちをいただく

**１　教材について**

　　地球上の生物は、食物連鎖の中で命を維持している。それは、わたしたち人間も同じであり、動植物の命を“いただく”ことで生命を維持できているのである。その一方で、

　「命は大切にし、奪ってはならない」ということも人類共通の価値観である。すると、自分たちは動植物の命をいただいているにもかかわらず、食肉業に対して「動物を“殺す”」「動物の命を奪う」という見方が出てくる。社会にとって不可欠な仕事であるにも関わらず、社会からの偏見や差別に晒されている現実は、食肉業だけに限らず清掃業などに従事する人々からも聞くことができる。

　　食肉業にたずさわる人々は、“殺す”とは言わず、“解く”と言われる。そこには、「動物の鳴き声以外は絶対にむだにしない」「できるかぎり動物が苦しまないで済むようにする」など、命に対する深い畏敬の念が込められているのである。「命は絶対に奪ってはいけない」ではなく、「自分たちが生きるために、動植物の命を大切に“いただく”。しかし、不必要な殺生はしてはいけない」。このような命の根底に関わる捉え方を幼少期にしっかりと身につけておけば、上記のような職業差別をしない子どもたちが育っていくと思われる。

　　このような学びは、頭の中で考えるだけでは身につきにくい。食肉に関わる人々（食肉センター、畜産業、精肉店など）と実際に出会い、そこで働く人々の思いや願いと出会うことによって、実感として身につけていくべき学びであると考える。そこで、本学習では地域の人々との直接の関わりを重視する生活科での学習として、時間をかけてダイナミックに学んでいくプロセスをめざした。

**２　実践のポイント**

　〇　小学２年生の生活科の学習として実施する。生活科の内容としては、学習指導要領（生活科）の階層「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」(3)地域に関わる活動を行う、階層「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」(7)動物を飼ったり植物を育てたりする活動を行う、(8)自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う、階層「自分自身の生活や成長に関する内容」(9)自分自身の生活や成長をふり返る活動を行う、という内容を関連させて計画する。

　〇　単元を構成するにあたり、生活科の学習過程として学習指導要領（生活科）に示されている①思いや願いを持つ、②活動や体験をする、③感じる・考える、④表現する・行為する（伝え合う・ふり返る）をふまえて計画する。

　　　①…絵本「いのちをいただく」をもとに食肉の仕事について考える。（本時）

　　　②…地域で食肉の仕事に関わっている人にインタビューする。

　　　③…インタビューで感じたことを伝え合う。

　　　④…学んだことを発信する。

　○　絵本「いのちをいただく」については、絵本の読み聞かせでもよいが、YouTubeの公式の読み聞かせ動画を使うこともできる。動画を使う際には、途中で広告が入らないように設定しておくことが必要である。児童の実態に合わせて決めてほしい。また、絵本の内容をふり返る際に使う挿絵の掲示物は不可欠である。

※公式【絵本読み聞かせ】いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日

<https://www.youtube.com/watch?v=k0Wso-job18>

　〇　本時（第１時）の学習では、導入として牛の命から生み出されたものを提示し、何からつくられたものか、子どもたちに考えさせる。そうすることによって、私たちの生活が動物の命によって支えられていること（それなしには生活できないこと）を感じ取らせたい。

　○　展開では、絵本をみた後に挿絵の掲示物を並べ、担任の先生に声をかけられる前後のしのぶさんの言葉、みいちゃんと出会う前後の坂本さんの言葉の変化の変化を取りあげ、どうしてその時二人はどんな気持ちだったのか、どうしてこのように気持ちが変わったのかを子どもたちとともに考えていく。そして、その時の坂本さんの気持ちを知るとともに、地域の食肉業に携わる人にインタビューしてみようという意欲を高めていきたい。

**３　教科等における活用例**

**〇　生活科**

　　　　上記の部分を参照。

**〇　道徳科**

本時のみを道徳科の授業として行うことも可能であると思われる。その際は、内容項目「D(17)生命の尊さ」で行うことになると思われる。

**４　実践を通して育みたい資質・能力**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識的側面 | ・自分たちの命や生活が、動植物の命によって支えられていることを理解することができる。・自分たちの地域にも、いのちをいただく（食肉）仕事をしている人がいることを理解することができる。 |
| 価値的・態度的側面 | ・絵本「いのちをいただく」を通して、登場人物の気持ちに思いをめぐらすことができる。・地域の食肉業に携わる方にインタビューすることを通して、その思いや願いを感じ取ることができる。 |
| 技能的側面 | ・学習を通して感じたこと・考えたことを、自分なりの言葉で伝え合い、共有することができる。・本単元で学習したことをもとに、自分たちの思いを発信する活動に意欲的に取り組むことができる。 |

いのちをいただく

**５　実践する教科等**

　　小学校　第２学年　生活科

**６　本時の目標**

|  |
| --- |
| **自分たちの命や生活が動植物の命をいただくことによって支えられていることに気づくとともに、食肉業に関わる人々の気持ちを考えることができる。** |

**７　展開例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動と主な発問（☆） | 予想される子どもの反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | **１　生活に欠かせないさまざまな品物から、私たちの生活が動物の命に支えられていることに気づく。**☆これから先生が見せるものが何かわかるかな？☆これらは全部同じものからできています。さて、何でしょう。 | ・わからない。・木？・鉄？・動物？・牛？・牛の命から、こんなにいろんなものがつくられてるの？すごい。・焼き肉も牛だよ。 | ○　墨汁、ランドセル（革）、鎧、雪駄、太鼓、薬（牛黄）を順番に提示し、児童に尋ねる。ヒントとして、チーズ、牛乳を提示する。○　ぜんぶ牛の命からできていること、生活も食べ物も動植物の命をいただいているから人間は生きていられることを伝える。 |
| 考える | **２　絵本「いのちをいただく」をもとに考える。**☆「いのちをいただく」という絵本をみてみましょう。　 |  | ○　絵本を読み聞かせる、または動画を最後までみせる。 |
| ☆　しのぶさんは、授業参観の時にお父さんの仕事を何と話しましたか。どうして、そんなふうに言ったのだろう。 | ・ふつうの肉屋。・かっこ悪い。・血がいっぱい。 | ○　授業参観の時の挿絵を提示し、しのぶさんの言葉を思い出させる。その場面を再度みて確認する。 |
| ☆　でもその後、しのぶさんの気持ちが変わったよね。どう変わったんだったかな。どうして変わったのかな。 | ・お父さんが仕事ばせんと、みんなが肉ば食べれんとやね。・担任の先生が「すごか仕事ぞ」って言ったから。 | ○　お父さんに話す場面、担任の先生と話す場面の挿絵をもとに思い出させる。 |
| ☆　しのぶさんのお父さんの坂本さんは、自分の仕事のこと、どう思ってたかな。それは、どうしてだろう。 | ・いつかやめよう・もう殺したくない。・牛がかわいそう。・子どもからかっこ悪いと思われている。 | ○　最初の挿絵をもとに思い出させる。○　坂本さんは、大切な仕事だということはわかっていても、気持ちがゆれていたことに共感させる。 |
| ☆　坂本さんは、最後に何と思ったかな。それは、どうしてだろう。ワークシートに書いてみよう。 | ・もう少し、続けよう。・やっぱり大切な仕事だから。・これからも牛の命を大切にしたい。・自分がやらなくちゃ。 | ○　最後の場面の挿絵をもとに思い出させる。○　難しい発問なので、考える時間は２分間とし、書けなくても考えることができたことをほめる。○　子どもたちが書いたものを全員で共有する。 |
| まとめる | **３　坂本さんの気持ちを知る。**☆　坂本さんが最後、どうしてそんな風に思ったのか、絵本の終わりにそのときの自分の気持ちを書いていらっしゃるので、読んでみますね。 | ・あー、そうだったんだ。 | ○　絵本のあとがき「みいちゃんに出会って、はじめて牛をかわいいと感じました。そのとき、自分の仕事の意味がわかったのです。―おれの仕事は、この子たちが少しでも楽な気持ちで天国に行けるようにすることなんだ―」○　坂本さんが、牛を“殺す”ではなく、“解く”ということにも何かわけがありそうなことを投げかけておく。 |
| ふり返る | **４　今日の学習の感想と食肉の仕事をする人に質問したいことをワークシートに書く。**☆　今日の勉強でどんなことを思ったか、ワークシートに書きましょう。そして、今度お肉をつくる仕事をしている人にインタビューをしに行きたいと思いますので、その時に質問してみたいことも書いてみましょう。 | ・みいちゃんがお肉になるところが、かわいそうだった。・もうお肉を食べたくない。・坂本さんの仕事は、とっても大切な仕事だと思った。・みいちゃんのおかげで、わたしたちも生きているんだ。・インタビューが楽しみです。 | ○　ワークシートに、本時の学習の感想と、自分が質問してみたいことを思いつくだけ書かせる。そして、地域の人にインタビューすることに対する意識と意欲を高める。 |